

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あしび園		
○保護者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	120人	(回答者数) 100人
○従業者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2026年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通園なので、子ども理解と関わり方について共有しやすい。また、保護者同士のつながりをもちやすい	・親子が活動を共有する中で、子どもの姿に興味づけしつづ理解の共有に努める ・定期的な個人面談を実施し、家庭生活の様子の把握や適切な子ども理解と関わりについて共有している ・おしゃべり会を定期的開催し、保護者間の交流を通して関係構築を図っている	・福山市のペアレントメンター事業を活用し、地域で活躍する先輩保護者との出会いの機会をもつ ・保護者のための学習会の充実を図る
2	・年齢や発達を考慮した集団編成とプログラム	・概ね1～3歳児までは午前クラス、4～5歳児は午後クラスとしていることで、生活リズムや体力面等に配慮し、より充実した活動ができるようにしている ・毎月の最終週にはクッキングの取組をしている。年齢や季節、興味などを考慮したメニューを選定している。	・家庭では経験できない、親子ならではの魅力的な活動内容を設定することで、期待感をもって利用していただけるようにする
3	・安定した職員体制による保護者支援の充実	・職員の経験年数や資格を考慮した研修会への参加を実施している。 ・相談援助技術を向上させるための職員研修や日々の意見交換を実施している	・職員の相談援助技術を向上させるために、園内で専門職員によるスーパービジョンを実施できる体制を整える

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通園であることでの利用しづらさ	・保護者が就労しているため、利用につながりにくい	・短時間でも、設定活動を親子で楽しみ、保護者同士の交流の時間をもつなどして、親子でなければ得られない活動内容を検討する
2	関係機関との機能強化・移行支援の難しさ	・併行先との連携は電話にとどまっている。 ・就学先の学校との積極的な連携は実施できていない(問い合わせがあれば応じている)	・関係機関や併行先の園または所に来園していただく機会をつくる。実際に療育に参加していただくことで、子ども理解を共有したり、支援について考え合う。
3	・近隣に遊び場が少ない	・近隣に公園が少なく、その中でも遊具が老朽化していたりと安全に遊べる公園が少ない。	・事業所内での遊びを工夫し充実させる。 ・また、園外療育として、あそび場の充実した公園等に出掛ける機会をつくる